

## 周辺の山々の伏流水

松本市は長野県のほぼ中央部、中信地方に位置する長野県最大の面積を持つ人口約24万人の都市である。古くは信濃国府、信濃守護の館が置かれ、江戸時代には松本藩の城下町として栄え、一年を通して国内外問わず多くの観光客が訪れる。松本市のシンボルである「国宝松本城」は、日本で2城(もう一つは姫路城)しかない五重天守の実物を残す城で、多くの観光客でにぎわっている。

この「国宝松本城」周辺の市街地を歩くと、城の東方から南方にかけて井戸や湧水の看板を見ることが出来る。松本城近くの至る所には水路が張り巡らされ、水路を覗くとニジマスが泳いでいる。環境省が実施した名水百選選抜総



松本市のシンボル「国宝松本城」

安曇野市「安曇野わさび田湧水群」だ。美ヶ原など周辺の山々の伏流水が地下に豊富に蓄えられ、地上に湧き出している。代表的な井戸・湧水地として「源智の井戸」や「北門大井戸」「女鳥羽の泉」がある。「源智の井戸」は城下町として栄え

酒造の地下からの湧水で、地酒「女鳥羽の泉」の仕込み水にも使われている。豊富な湧水は、城下町を訪れる人々や住民の喉を潤し、木造家屋が軒を連ねた時代には火災の消火の際にも役立つたのだろが、一方で湧水が原因でまちづくりに苦心したと推測することができる。湧水が豊富であるが故に地盤は軟弱、城下町特有の道路事情(道路は細く、クランク状道路やT字路、ずらして交

を決めたことも想像できるし、湧水の受け皿である堀から水が溢れない標高・位置に設置することは微妙な高さ加減が必要だったと思われる。

### あえて水路を残す

このように昔から張り巡らされていた水路網は、昭和40年以降に行われた再開発事業の計画次第では暗渠化の可能性もあったと思われる。しかし松本市が選択した計画は、道路・歩道の脇などに見える

## 一般財団法人日本不動産研究所 ①7 地域資源を生かす

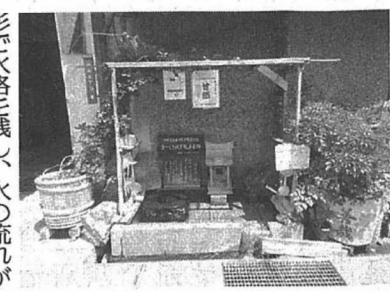
～まちづくりからインバウンドまで

## 長野県松本市

選挙で第3位、平成の名水100選にも選ばれている「まつもと城下町湧水群」(1位は

## 国宝松本城を巡る「まつもと城下町湧水群」

# 名水百選、自然の豊かさ示す



る以前から人々に利用されてきた歴史ある井戸で毎分200リットルの湧出量がある。「北門大井戸」は明治期に総堀りが埋め立てられた際に作られた井戸、「女鳥羽の泉」は善哉

最近では松本城三の丸跡土井尻では外堀と総堀をつなぐ排水用の水路の遺構が見つかっている。この水路は松本城が築かれてから昭和30年頃まで使用されていたとのこと

まつもと城下町湧水群の代表的な井戸・湧水地。上から「源智の井戸」「北門大井戸」「女鳥羽の泉」

(松本支所、不動産鑑定士・郷間智史)